

平成 14 年度

第 4 回

大和市 協働ルール ワークショップ

H14.12.8 開催

発行日：平成 15 年 1 月 22 日 発行：玉川まちづくりハウス・大和市民活動課

平成 14 年度のスケジュール

第 1 回ワークショップ【H.14/9/23】

『新しい公共を創造する市民活動推進条例の精神を確認する』

「新しい公共を創造する市民活動推進条例」の精神を確認する。

今年度の検討事項を整理し、ワークショップの目的を確認する。

協働事業の可能性について考える。

第 2 回ワークショップ【H.14/10/14】

『協働のイメージを共有する』

協働事業の課題を整理する。

・市民事業、行政事業との比較検討
パイロット事業を企画する。

(住まい、子育て、高齢者・障害者、環境共生、リサイクル)

第 3 回ワークショップ【H.14/11/17】

『協働事業の指針を考える』

協働事業実務の検討のポイントを整理する。

第 4 回ワークショップ【H.14/12/8】

『協働事業をシミュレーションする』

モデルプロジェクトを通して指針の課題を点検する。

『協働事業推進の問題点を整理する』

残された検討課題を確認する。

ワークショップ型シンポジウム

12月8日(日)に、今年度最終回となる第4回協働ルールワークショップが行なわれました。30名が参加し、「協働ルールをシミュレーションする」と「協働事業推進の問題点を整理する」をテーマに議論を行ないました。



まず、検討題材として提案いただいた7つの事業について、6グループにわかれて検討し、企画書案を作成しました。

1グループ：太陽光発電設備設置プロジェクト(宇津木委員)

2グループ：セラピーなど相談(カウンセリング)機能をつくるための協働(植村さん(河崎委員代理))

3グループ：共育ちプラザ「まんまの自分」関係(岡島委員)

4グループ：コミュニティーサロン(カフェ)・プレイセンター(協働的幼児教育)のモデル事業(池本委員)

5グループ：中高年のための再就職支援研修事業(内田委員)

6グループ：NPO基金(築地さん)

そして、グループ提案を発表した後に、参加者全員がどの事業が良いかの投票(1人持ち票:3票)を行いました。どの企画書案の得票も大差はなく拮抗していました。

今回、議論された具体的な協働事業のイメージが、ワークショップ参加者や推進会議準備会委員の方々をはじめ、大和市で暮らす人々の手によって、どのように実現されていくのか非常に楽しみです。



グループ2

セラピーなど相談(カウンセリング)機能をつくるための協働

発案者・植村さん(河崎委員の代理として)の説明



- ・ここ数年あたためてきた問題意識だが、虐待・ひきこもり・DV・自殺など心に笑顔を失った人々が増えている。
- ・地域の間人関係が希薄になっているなかで、福祉の現場でもさまざまなニーズがみえている。
- ・市の相談機能もあるが、それだけで十分とはいえない。
- ・市民による傾聴・セラピー・相談機能をつくりたい。
- ・市には部屋の提供や、資金提供(日当分程度)をお願いしたい。

協働事業の企画書案

グループで検討

事業名・事業主体	セラピーなど相談(カウンセリング)機能をつくるための協働 ・市民救済協会 ・市民お助けセンター ・相談なんでも受付協会 ・心のルーム	
事業の概要	・市民に身近な生活相談員としてカウンセリングに応じる。 ・心の問題での相談で、明るさと希望を持っていただく。 ・セラピー、カウンセリング機能をつくる。	
「新しい公共」を実現する上で強調したい点	・多様な「私」による選択可能性"いろいろ選べる" ・困って来る方に門を開けやすいものとし、感覚の平準化を図る	
協働事業の役割分担		
市民活動団体の役割	市民ボランティアの役割	市の役割、事業者の役割
・スーパーバイザーとの連携 ・コーディネート機能 ・ニーズに適したもので対応する ・相談員の養成	・専門的な研修を受講する ・市民(訓練を受けた) ・ケーススタディなど(医師によるカンファレンスのような物) ・カウンセラー	・市の担当部署との連携をどうとるか? (Ex.DV 市民活動課、不登校 青少年センター) ・広聴相談課との住分け・連携 ・セラピールーム等の提供 ・専門家(弁護士など)との連携
協働事業の形態	場所貸し、連携、経費補助 単純な「補助」「委託」はなさない	
事業評価の方法	相談時間数/相談を受けた人数/カウンセリングレポートの提出・評価/相談カルテの作成と守秘義務 ・市民が了解しやすい適正な評価により基準経費を負担していただく。	
3年間の活動計画	【1年目】市民の相談活動としての浸透を図る 【2年目】相談内容の充実、相談員の充実 どのような相談も受けられるように 【3年目】継続、 市民相互援助意識の向上により、相談業務の事業化を定着させる。	
シール投票獲得票数	●●●●●●●●●●●●●● (14票)	

発表の概要

- ・事業主体はあくまで市民である。多様な「私」の選択の可能性を広げたい。
- ・評価方法として、「カウンセリングレポートの提出」という意見もあったが、守秘義務があるため難しい。「不正があったときのみ、必要な書類を提出する」ぐらいに留めた方がいいと思う。
- ・基準経費は受益者に払ってもらおう。残りは行政の方で手助けしてもらえれば。
- ・日本はカウンセリングの評価が低い。これから様々な分野でカウンセリングが必要となっていくであろうし、こうした事業を通じてカウンセリングを広く知ってもらいたい。

グループ7.3

共育ちプラザ「まんまの自分」

発案者・岡島委員の説明



- ・現在すでに、子どもが主体的に運営するこどもの居場所づくりを始めている。
- ・大人がお膳立てするのではなく、ルールも含め子どもが自分たちで決めていく、という考え方で進めている。
- ・現在は生涯学習センターを拠点としてイベントでの遊び提供などの活動も行っている。
- ・児童館などの有効利用や、宿泊可能な施設、商店街の空き店舗を利用したまちなかのサロンとして気軽に立ち寄れる場の確保など、若者や子ども連れの若い母親たちが気軽に立ち寄れる場の確保が課題である。
- ・これらの事業を、市民と市民団体と事業者と行政の協働事業として検討できないか考えてみたい。

協働事業の企画書案

グループで検討

事業名・事業主体	共育ちプラザ“まんまの自分”	
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子供主体の運営（ゆるやかな居場所） ・就労支援や夢実現への伴走的支援 ・協働的な子育て支援（自己責任と権利） 	
「新しい公共」を実現する上で強調したい点	顔の見える地域づくりを地盤とした、子どもを主体とした居場所づくり	
協働事業の役割分担		
市民活動団体の役割	市民ボランティアの役割	市の役割、事業者の役割
・コーディネーター 運営サポート的役割と 個々の研修提供など	一緒に遊び、一緒に夢実現、共に学びあう	・場所の提供 ・資金、技術、人材的支援
協働事業の形態	補助・助成、市民事業的協働事業	
事業評価の方法	主体である子供たちが本当にいきいきとした居場所になっているかどうか。 事業のひろがり（いかに自然体になっているかどうか。）	
3年間の活動計画	【1年目】 （組織の）受け皿づくり 【2年目】 子供主体の運営管理 【3年目】 支援事業の発展的実現	
シール投票獲得票数	●●●●●●●●● (9票)	

発表の概要

- ・子どもたちのいじめが多くなっている。非行に走るケースも増えている。子ども主体の運営で、子どもの居場所を作りたい。
- ・具体的なシミュレーションをすることで、市民の人たちのニーズと、すでにあるサービスがずれていて、そのずれている部分にきめ細かに対応していくことこそが市民事業に求められているとわかった。また、新しい公共は、そうした新たなニーズを市民が拾っていき、事業の展開をしていくことで実現されるということも確認できてよかった。



グループ4 プレイセンター(協働的幼児教育)のモデル事業

発案者・池本委員の説明



- ・プレイセンターとは親が行う幼児教育活動であり、ニュージーランドで50年以上の歴史を持つが、最近、日本でも関心が高まっている。
- ・プレイセンターは、子どもにとっては「遊びと学びの空間」、親にとっては生涯学習の場である。
- ・日本では、幼保一元化にふみきらなければ本来のプレイセンターはできないだろう。
- ・また、親の負担も大きいし、現在のしくみでは専業主婦が主体とならざるをえないため、労働政策の転換を促す必要もある。
- ・そこで、いろいろな人の知恵や意見を集めて、まずはモデル事業的に行ってみたいことが必要であると考えている。

協働事業の企画書案

グループで検討

事業名・事業主体	プレイセンター(親たちによる幼児教育活動)	
事業の概要	遊びと学びの空間、親の情報交換と学習	
「新しい公共」を実現する上で強調したい点	幼保一元化(親が参画する公共)	
協働事業の役割分担		
市民活動団体の役割	市民ボランティアの役割	市の役割、事業者の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・運営 ・スーパーバイザーの養成 ・カリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・労務の提供 ・知識の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の提供 ・運営費の助成
協働事業の形態	補助・助成	
事業評価の方法	市内1ヶ所でモデル事業 自己点検評価 ・内容は市民に完全に公開	
3年間の活動計画	【1年目】施設の確保 スーパーバイザーの養成/カリキュラムの作成 資金計画 【2年目】広報/資金の確保 【3年目】スタート	
シール投票獲得票数	●●●●●●●●●●●● (12票)	

発表の概要

- ・教育制度としての幼稚園、福祉政策としての保育所という、2つの既成の公共サービスをまたぎ、お互いがないところを埋めて一元化を図る。これはまた、親たちが主体となった新しい公共の実現でもある。
- ・保育園や幼稚園の先生方から専門的な知識などを提供してもらって、適度な自由度を持った今までにない「遊びと学びのカリキュラム」づくりを行なう。
- ・自己点検評価し、その中身については全て市民に公開する。そしてその反響を受けて、改善につなげていく。



発案者・内田委員の説明

- ・この事業提案は、神奈川県ボランティア活動推進基金21の協働事業負担金（平成15年度）に応募したもの。しくみづくりの参考になればと思い題材として提供した。
- ・再就職支援サービスはかなりのお金がかかるため、現在は限られた大企業出身の退職者に限られている。
- ・失業者がますます増加することが予想されるなかで、より多くの中高年に再就職支援サービスを提供するための活動である。



協働事業の企画書案

グループで検討

事業名・事業主体	地域産業デザインのための再就職支援研究開発事業		
事業の概要	地域に点在する人・情報・技術の流動化や活性化といった、新陳代謝を促し、地域産業の再構築・育成を行う。		
「新しい公共」を実現する上で強調したい点	地域産業の再構築を中心（ソーシャルインパクト）とした新しい公共の創造		
協働事業の役割分担			
市民活動団体の役割	市民ボランティアの役割	市の役割、事業者の役割	
・組織の運営 ・事業の遂行 ・入口と出口に介添えする	・有資格者の活用 ・人材情報のデータバンク	・法律の整備 ・関連事業のアウトリッチ ・求人、事業情報の提供 ・市の職員の参加(流動化)	
協働事業の形態	共同研究及び事業委託		
事業評価の方法	・定量評価 ・定性評価「サービスの質」の評価手法の確立		
3年間の活動計画	【1年目】研究開発（仕組みをつくる）2～3の事例構築 【2年目】産業振興課との協働 【3年目】協働事業の拡大		
シール投票獲得票数	●●●●●●●●●●●●●●●● (11票)		

発表の概要

- ・最初の提案は、再就職のための研修をするという「入口」の話に留まっていたが、再就職後の支援、再就職先といった「出口」の話もセット取り組むべきだということになった。
- ・まず、大和市の雇用状態 どういう産業に人が足りないのか - を調査する。その上でまず1つ、小さな成功事例を作る。どれだけ就職できたかの実例を出すことを初年度の目標にして、これをつなげて「小さく生んで、大きく育てる」。
- ・大和の産業構造を把握し、今後どのようにデザインしていくべきかという観点を入れることで、新しい公共の創造になる。
- ・事業者からも退職者からも、今までの公共サービスではできなかったようなきめ細かいカウンセリングをすることで職業のミスマッチを防ぎ、よりよりマッチングを図り、成功率を高める。
- ・こうした新たな市民手づくりの職業紹介の実現をもって、既存の行政サービスに対する提言としたい。



感想カードより



有意義に過ごせた

新しい協働というイメージをつかみやすいディスカッションに参加でき、非常に有意義でした。一部の人だけではなく、市民それぞれが自分のものとして地域を考える仕掛けができれば本物になるように思います。ありがとうございました。

4回のワークショップも尻上がりに充実してきたように思います。事務局の方々、ありがとうございました。お疲れ様でした。

はじめて参加しました。みなさんのレベルの高い発言に感心いたしました。提案型の内容、進行であったため満足感をうけました。今回、みなさんと人間関係もつくれたため、今後もいろいろな面でお付き合いができればいいなと思います。職員と市民の皆さんが一緒にテーブルにつくのは、意味がありますね。

最後にこの協働事業の成功をこころから祈願する者です。いつもいろいろ大変良い体験学習をさせていただき、心から厚く御礼申し上げます。

最終日のワークショップ「協働事業をシミュレーションする」の協働事業に関する検討題材、参加の「テーマ」として、「太陽光発電設備設置プロジェクト」について、協働させていただきました。このテーマの目的は「自然エネルギー利用による温暖化防止活動の市民事業への啓発」です。大変良いプロジェクトで、必ず成功すると確信しております。

具体的な事業についての話だったので、課題がわかりやすく面白かった。

本番の協働事業選定にあたって、同様のワークショップで議論 プレゼンテーション 投票という形式にすれば明確になると思います。

問題等を挙げるという立場の参加でしたので、みなさんのムードを盛り上げてしまわないかなと心配でした。太陽光発電については、何の問題もありませんし、本来行政主導で行うことではありますが、市民の力をいただければ、実現も早まると思います。多くの方の意見をいただき、有意義な時間を過ごすことができました。

今日は具体的な事業を検討したということで、非常に面白かったです。今日、提案されたものが、全部実現できたら、とても魅力的なまちになりそうですね。

諸般の事情でWorkshopははじめての参加でした。従って、どんなものか見学するつもりで参加しましたが、実際は非常に楽しく勉強できました。有意義にすごした1日でした。ありがとうございました。

メール1本でプレゼンよろしくとのこと、代理プレゼンとなりました。最後の赤丸がなんにもつかなかったらどうしようかと心配した。いい数の指標がありうれしかった。職員が関わってくださっているいろいろな意味有意義でした。ワークショップとても楽しかった。基本条例をつくる会への参考にもなりました。

大変具体的なテーマが出て来た。まだ、議論したい問題もあるが、時間がないので、別の機会に何か実施してもらいたいものです。テーマを絞ってもっと時間をかけてやる必要もある。(合宿するくらい)

プレイセンター事業の感想を中心として協働事業のシミュレーションモデル事業を実施し、事業化を図る。既成のタテ割りは、市民にとって利用しにくい

そこで、市の施設を活用してNPOによる弾力的な運営を図る
全体の感想としては、WSによる市民参加方式手法についてよい体験ができた。

最終のワークショップということで、6つの事業を例にシミュレーションしましたが、内容もまずよく捕らえられて良かったと思います。ようやく協働ルールのあり方がわかってきた感じでした。なかなかまだなじまない感じがしますが、ひとつのものを形づくるという事は、難しいなと思いました。

恥ずかしながらこの期に及んで、協働ルールとはどんなものかが、余り深く理解できていませんでした。しかし、このワークショップの協働事業シミュレーションで中身が少なからず理解できたと思います。今回、話し合った事業シミュレーションが実現したらまさに、新しい公共だと少なくともいえると思います。

新しい法律が必要になる。そのために立法機関の出席が肝要。市民活動課から市議員に問題提起が必要。

ちょっと一言!

4回のワークショップの内2回出席できましたが、やはり、毎回出席しなければならなかった。本日、4回目、各テーマ報告後、それぞれ他のグループからの質疑があってもよかったのではないかな。

評価については、軸がもう少し議論された所でないと難しい。最終的に金がネックになるわけで、このところ抜きには、アイデアの人気投票になってしまおうのでは。今日の投票はこの面ではOK。事業の質の評価は本当に難しい。実現可能性という意味で、どれほど深く考えられるかが大切。参加者にとっては、軸の重要さの認識がされてないとしたら、進行上やや問題か。

協働の「かたち」が見えてきた!

具体的なシミュレーションをやることによって気づいたこと。
市民に密着したニーズの考え方を、これまでの行政や事業者のやってきたこととのズレの中で、そのズレたニーズを細かく拾っていくという、市民活動など新しい公共の質の意味が確認できたように思います。本当に市職員の方達の参加があってよかったしできれば市議の参加を呼びかけたい。

どのように資金調達するかカギ

本日のシミュレーションに参加して、私たち市民参加の分野が沢山あるのに気づかせていただきました。しかし、資金の問題も必ずあることもわかりました。大和市にNPOの拠点を早く立ち上げていただきたいと思いました。前回のワークショップからの参加でしたが、本当にこのチャンスにめぐりあえてよかったと感謝致しております。

自分たちでやる!

風呂敷をひろげたら、最後まで責任を持つ! 結局、行政の負担増では協働ではない。市民、市民団体といえども公金を使用することに甘えはゆるされなない。

まだまだ行政依存の体質から抜け出せない発想のプランが多いのは少し残念です。殆どすべてのことを市民が行い、行政はサポート役という位置づけが定着しなければ、「新しい公共」という理解が進まないのではないかな。要するに一番大切なのは、お金も自分で集めるということ。「市民が主役」が民主主義の基本であり、より「小さな政府」の追求が、「市民自治」につながると思います。

今日のワークショップは有意義なものであった。各協働事業の提案は素晴らしいものであったが、予算の問題として市側から提示してもらえないと、動き出せないのではないかな。